

【教育活動の名称】 めざせ！跳び箱名人

【学校名】 栗東市立治田東小学校

1 本校の概要

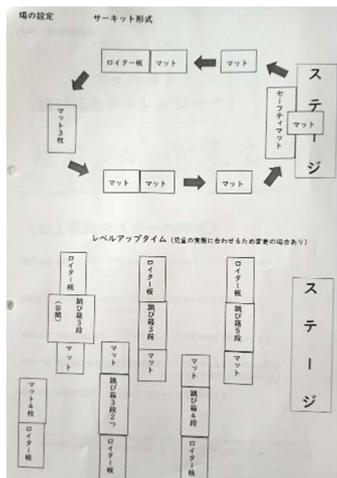
本校は、栗東市の東部に位置し、創立42年目を迎える。栗東自然観察の森に隣接した立地にあり、自然に囲まれた環境である。校区は、市役所や体育館等の公共施設がある市の中心部から名神高速道路沿いの山間部を造成した住宅地まで広域に広がる。現在の児童数は、405名（通常学級14学級、特別支援学級4学級）の中規模校である。令和5年度より、校内教育支援センターを開室し、不登校・集団不適応児童への支援ができるよう取り組んでいる。

2 取り組んだ内容

(1) 体育科 器械運動（跳び箱運動）の学習

4年2組で跳び箱運動に関する意識調査を行ったところ、「嫌い・どちらともいえない」と答えた児童が7割近くを占め、その理由として、恐怖心があることや技能の定着が不十分であることがわかった。

そのため、次の2点について工夫して授業を組み立てることとした。①毎時間、基礎感覚づくりの運動や基本的な技の練習を設定する。②自分の課題に応じた主運動につながる練習ができる場の設定をする。



左記の場の設定を行うことで、跳び箱運動に対して苦手意識をもっている児童が、積極的に運動に参加し、自分の課題に向き合い改善していく中で、運動の楽しさを実感できるよう指導していった。

(2) 校内教育支援センターでの体づくり運動

昨年度から本校で開室し、運営している校内教育支援センター（ほのぼのルーム）がある。現在、6名の児童が利用し、学校生活の居場所づくりや心の安定の場となり、登校への抵抗が軽減することを目指している。一日の中で、児童に応じて学級での授業に参加できるようにしているが、教科や学習内容によって参加できない場合がある。特に、体育科の学習には気が乗らない児童が数人おり、参加しても見学するのみとなっていた。

そのため、気軽に体を動かし体幹を鍛える運動ができるようバランスボールを取り入れることにした。



3 活動の成果



基礎感覚づくりや基本的な技が練習できる機会を多くつくったこと、自分の課題に応じた練習ができる場の設定があったことで、児童は積極的に練習を繰り返していた。視覚化した技のポイントを提示したこともあり、児童同士で教え合う姿が見られた。また、学習の回を重ねる度に、児童による器具の準備や片付けが早くできるようになり、協力して動く姿にも変化が見られた。

校内教育センターの児童は、以前からバランスボールをほしがっており、校長より「贈呈式」を行い、仲良く使えるよう約束事を決めるよう提案した。担当教員と共に、使用についての約束事を児童が話し合って決定した。コミュニケーション力と運動の向上に役立っている。